熊野古道　写真提供：公益社団法人和歌山県観光連盟

熊野の心に出会える場所
聖地へとつながる道「熊野古道」

紀伊半島南部、険しい山々が折り重なる紀伊山地の奥深くの熊野。古より神々が集まる聖地とされ、多くの巡礼者たちが踏みしめた道を、古道の語り部と歩きます。

古道語りべ　熊野赤リュックスタッフ（ガイド）

古道語りべ　熊野赤リュックスタッフ（ガイド）

「わかりやすい、たのしい、なるほど」に至る、語りをモットーにしてふるさと熊野をご案内。行程の最後には当プランオリジナルの熊野本宮大社の御朱印をお付けした特別な踏破証明証をお渡しいたします。

牛馬童子像

牛馬童子像（ぎゅうばどうじぞう）

中辺路ルートのシンボルともいえる牛馬に乗った童子の石像。高さ約50cm程で明治時代に作られました。

近露王子

近露王子（ちかつゆおうじ）

熊野古道の要所であり、五体王子の次に重要とされた王子。日置川に架かる北野橋を渡ってすぐの所に近露王子之跡と刻まれた自然石の碑がある。江戸時代に宿場町として栄えた、近露の里の原風景が広がります。

大斎原（おおゆのはら）

神が舞い降りたとされる地。音無川と熊野川の水のアニマが集めた肥沃の大地「旧社地大斎原（きゅうしゃじおおゆのはら）」。その入口には、日本一の大鳥居が旅人を迎えます。

大斎原（おおゆのはら）

発心門王子

発心門王子（ほっしんもんおうじ）

「菩提心本を発する門」という意味で、熊野大社の聖域の入口とされます。

伏拝王子から広がる山々

伏拝王子（ふしおがみおうじ）から広がる山々

昔の旅人が初めて熊野本宮大社を遠くに見て、伏して拝んだという伏拝王子。「大斎原」の大鳥居を望むことができます。

お弁当イメージ

昼食（2日目）

高菜の浅漬けの葉でくるんだ郷土料理のめはりずしをはじめ、季節の野菜や女将さんが山で摘んだ山菜を使ったお弁当。